

令和3年度 学校生活相談センターの相談受付状況について

心の支援課

1 学校生活相談センターの概要

児童生徒や保護者が、いじめ・不登校などの学校生活における様々な悩みについて24時間相談できる窓口として、文部科学省「24時間子供SOSダイヤル」を活用し平成27年度に開設。平成28年度からフリーダイヤルとなった。

フリーダイヤル 0120-0-78310 E-mail gakko-sodan@pref.nagano.lg.jp

2 相談受付状況

(1) 受付種別

区分	相談件数					延べ回数					
	H29	H30	R1	R2	R3	H29	H30	R1	R2	R3	
電話	平日昼間	284	329	312	325	305	412	527	497	539	440
	夜間・休日	324	355	394	406	328	428	593	879	636	573
文書（メール・FAX・手紙）	80	84	116	94	129	173	190	228	140	195	
来所	5	0	6	2	0	8	16	10	3	0	
計	693	768	828	827	762	1,021	1,326	1,614	1,318	1,208	

⇒電話による相談件数は、平日昼間、夜間休日ともに減少した。特に夜間・休日の相談件数が大幅に減少した。

⇒相談件数、延べ回数ともに、メールでの文書相談が増加した。相談件数はここ5年間の中で最も多かった。

(2) 相談者の内訳

区分	相談件数	割合	延べ回数	割合
子ども	258	33.9%	400	33.1%
本人	253	33.2%	393	32.5%
本人以外の子ども	5	0.7%	7	0.6%
大人	464	60.9%	755	62.5%
父	84	11.0%	129	10.7%
母	295	38.7%	519	43.0%
祖父	4	0.5%	8	0.7%
祖母	15	2.0%	20	1.7%
その他の大人	66	8.7%	79	6.4%
不明	40	5.2%	53	4.4%
計	762	100.0%	1208	100.0%

⇒相談者の内訳は、子どもが33.9%、大人が60.9%であった。

⇒中でも母親からの相談が最も多く、全体の38.7%であった。次いで、本人からの相談が33.2%となっている。これは例年と同様の傾向である。

(3) 他機関との連携

区分	相談件数	割合	延べ回数	割合
関係機関へ連携した案件	80	10.5%	116	9.6%

【主な連携先】※（ ）は延べ連携回数

小中学校（37回） 高等学校（32回） 市町村教育委員会（12回） 児童相談所（1回） 警察関係（1回）

⇒相談者が希望した場合や、虐待や自殺をほのめかすなどの場合は、関係機関へ情報共有や連携を図り、その割合は約1割あった。

(4) 相談内容 (主訴別の件数)

【子どもからの相談】

区分	R3				R2		R1		
	相談件数	割合	延べ回数	割合	相談件数	割合	相談件数	割合	
子どもに関すること	いじめ・嫌がらせ	27	10.5%	31	7.7%	19	6.7%	29	10.9%
	不登校・登校渋り	12	4.6%	26	6.5%	16	5.6%	14	5.3%
	暴力問題	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%
	異性関係・性の問題	9	3.5%	23	5.8%	2	0.7%	15	5.6%
	対人関係・友達関係	34	13.2%	50	12.4%	45	15.8%	41	15.4%
	非行・不良行為	1	0.4%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%
	心身の疾患・障がい	10	3.9%	17	4.3%	14	4.9%	16	6.0%
	学業・進路	19	7.3%	35	8.7%	28	9.8%	13	4.9%
	自分関連(性格など)	37	14.3%	53	13.2%	24	8.4%	17	6.4%
	ネット・ゲーム関連	2	0.8%	3	0.8%	4	1.4%	5	1.9%
学校・教師に関すること	54	20.9%	84	21.0%	49	17.2%	54	20.3%	
家庭・私生活に関すること	30	11.6%	41	10.3%	47	16.5%	22	8.3%	
意見・問い合わせ	11	4.3%	14	3.5%	20	7.0%	19	7.1%	
その他	12	4.7%	22	5.5%	16	5.6%	21	7.9%	
計	258	100.0%	400	100.0%	285	100.0%	266	100.0%	

⇒子どもからの主訴は“先生の言葉に傷ついた”など「学校・教師に関すること」が最も多かった。
 ⇒次いで“漠然とした不安がある”など「自分関連(性格など)」や“友達がうまく作れない”など「対人関係・友達関係」に関する相談が多かった。
 ⇒コロナ禍ではあるが、通常の学校生活に戻つつある中、「家庭・私生活に関すること」の相談が減少した。

【大人からの相談】

区分	R3				R2		R1		
	相談件数	割合	延べ回数	割合	相談件数	割合	相談件数	割合	
子どもに関すること	いじめ・嫌がらせ	50	10.8%	70	9.3%	48	9.1%	78	14.3%
	不登校・登校渋り	71	15.3%	116	15.4%	94	17.9%	70	12.9%
	暴力問題	0	0.0%	1	0.1%	3	0.6%	2	0.4%
	異性関係・性の問題	2	0.4%	10	1.3%	0	0.0%	6	1.1%
	対人関係・友達関係	28	6.0%	49	6.5%	12	2.2%	37	6.8%
	非行・不良行為	2	0.4%	2	0.3%	3	0.6%	0	0.0%
	心身の疾患・障がい	9	2.0%	16	2.1%	17	3.2%	8	1.5%
	学業・進路	14	3.0%	27	3.6%	17	3.2%	14	2.6%
	自分関連(性格など)	1	0.2%	1	0.1%	4	0.8%	1	0.2%
	ネット・ゲーム関連	5	1.1%	6	0.8%	4	0.8%	1	0.2%
学校・教師に関すること	148	31.9%	217	28.7%	115	21.9%	188	34.6%	
家庭・私生活に関すること	50	10.8%	131	17.4%	59	11.2%	59	10.9%	
意見・問い合わせ	59	12.7%	72	9.5%	127	24.1%	71	13.1%	
その他	25	5.4%	37	4.9%	23	4.4%	8	1.4%	
計	464	100.0%	755	100.0%	526	100.0%	543	100.0%	

⇒大人からの主訴は“子どもに寄り添った対応がない”“学校の対応に納得ができない”など、「学校・教師に関すること」が最も多かった。
 ⇒次いで“学校を休ませた方がよいのか”など「不登校・登校渋り」に関する相談が多かった。
 ⇒「意見・問い合わせ」が昨年より減少したが、依然、新型コロナウイルス関連の相談が続いている。

3 成果と今後の対応

コロナ禍ではあるが、学校生活の中で様々な活動ができるようになり、相談の内容も通常の学校生活の中での悩みに戻りつつある。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の状況に伴って、意見・問い合わせが増加する傾向も見られ、当窓口が不安な気持ちを相談できる役割を担っていることは確かである。引き続き、相談者が気軽に相談できる窓口として、相談者に寄り添った対応を大切にしながら、LINE 相談とも連携し、相談者自身が自ら動きだすきっかけとなる相談体制の構築に努めていく。